



埼玉県校外教育協会
シンボルマーク

校外教育

～「郷土愛を育む」埼玉県校外教育協会～

NO.154

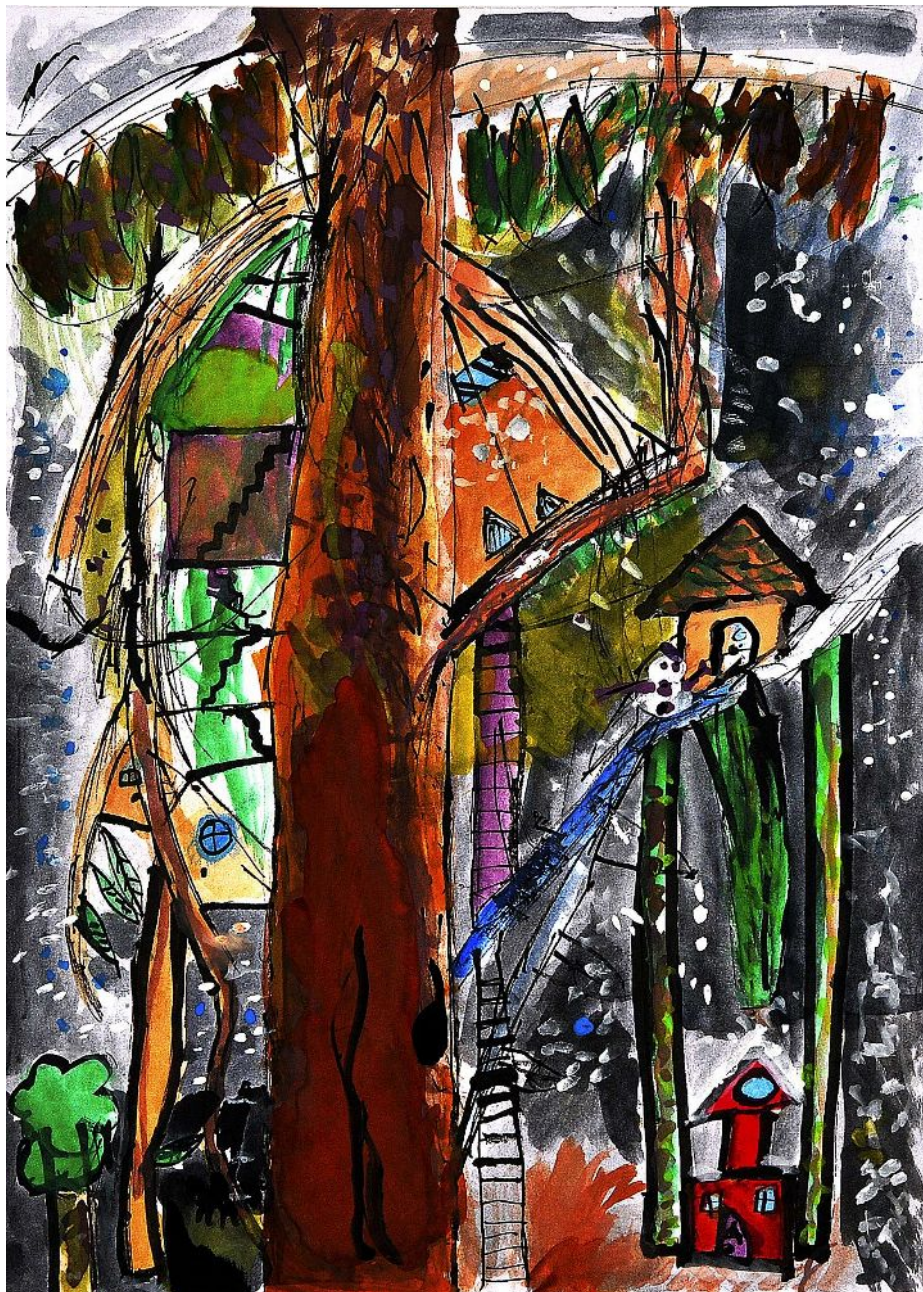
令和3年2月発行

一般
社団法人 埼玉県校外教育協会

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課内
TEL：048-830-6748

ホームページ

特集 第55回「郷土を描く児童生徒美術展」



「ゆきの中のツリーハウス」
新座市立栄小学校 4年 山口 彩葉さん

【作者から】

栄小のもみの木から葉が散った姿を想像して描きました。雪の降る寒い夜に月明かりに照らされるツリーハウスで、みんなでかくれんぼをしたり宿題をしたりしたいです。

【保護者から】

今回の受賞を家族全員大変嬉しく思います。こうだったら素敵だな、楽しいなという気持ちが伝わる絵だと感じました。これからものびのびと好きな絵を楽しんで描いてもらえたら良いなと思います。

第55回「郷土を描く児童生徒美術展」中央展覧会を終えて ～ 2日間の出会いと幸せ ～

人間地区代表
所沢市立荒幡小学校長

鈴木 勢津子

子どもの絵は私たちに「笑顔」と「ちから」を与えてくれる。

第55回「郷土を描く児童生徒美術展」中央展覧会が、県立近代美術館2020年最後の展示企画として12月26日(土)27日(日)に開催された。

コロナ禍で開催が危ぶまれたが「密」を避けるため、知事賞120点のみの展示となった。コロナ感染拡大防止対策として、絵は一枚一枚間隔を十分に取って展示され、来場者の検温、手指消毒、カードの記入、さらに分散鑑賞を促すため、事前に受賞者には来場時間の指定を行った。

このような状況であったが、2日間で603人が来場した。「あった。あった。あそこ。あそこ。」と言って、一目散に自分の絵に家族を導く子。「どうしても孫の絵が見たかったの」と車いすでいらした方。最近、見る事が少なくなっていた本当の笑顔が、この展覧会にはあった。この展覧会を開催した意味・意義がここにあった。

来場者のアンケートでは「コロナ禍で臨時休館日なのに娘の知事賞の絵画が観れて良かったです」「素晴らしい」「見る事ができてありがたいです」「見応えのある作品」など嬉しい御意見をいただいた。

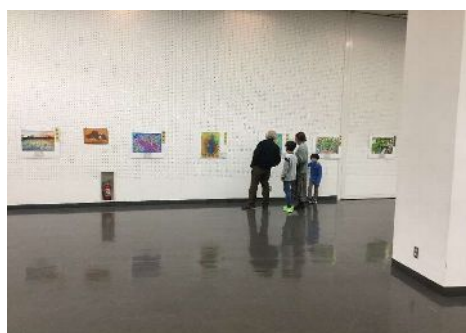
作品を見ながら、「この絵を描いた子は、何を思って描いたのだろうか。どんな子だろうか。」など様々な想像をする。だから、私は作者に話しかける。なるほど、やっぱりと思うこともあれば、その想像が見事に裏切られることもある。そんな時は、驚嘆するとともに1枚1枚の絵に込められた深い思い、愛情を知らされる。それはその子にとって、一人ひとりにとって、確かに「特別な1枚」である。

「本が好きで毎日のように図書室に通っている。好きな本は シリーズ。」「ナマケモノに花火を見せたかったから、この絵を描いた。この絵ができた時はうれしかった。満足した。」その絵の通り、温かくやさしい雰囲気の子。元気いっぱいでお話がとまらない男の子。3年間知事賞を受賞した中学生。彼は3年間「川(水)」にこだわって描き続けた。色遣い、構図、イメージなど、3年間の成長を感じるとともに、変わらない空気感、こだわり。

心が動く 感情が動く 感動やこだわりなど、その子の思いが形になる。

幸せな気持ちを抱いた帰り道、秩父の山並みに夕日が沈んでいった。藤城清治の影絵の世界のような美しい光景を見ながら、来年はどんな絵と出会えるのかとまた心がときめいた。

展覧会当日の様子



知事賞作品の紹介（小学校低学年）

小学校低学年の審査に携わって

さいたま市立大宮西小学校長 丹後 雅博

小学校低学年では、子供たちが感動したものや描きたいものに対する溢れる思いである「心の声」が伝わってくる作品が増えてきているように思えます。子供の絵を見るときのポイントである「喜びにあふれているもの」「焦点がしっかりしているもの」に合った作品が多くありました。

作品づくりで大切なことは、子供の思いを認めることと、その上で行う指導が上手に一致することだと言えます。今回の審査で話題になったことは、絵を描いた作品の中に切り取った人物などを貼り付けたり、タンポなどを使って下絵づくりをしたり、輪郭線の色を統一したりすることなどは、本当に子ども自身の思いの中から出てきたものなのか疑問になるということでした。今後も、低学年らしい子供たちの「心の声」が聞こえる作品がたくさん出てくることを期待しています。



「ナマケモノときせつの花火」
北本市立南小学校 2年 鈴木 晴太さん

【作者から】

ぼくは、ふだん森でしずかにくらすナマケモノに楽しいきれいな花火をみせてあげようと思ってこの絵をかきました。きせつの花火の色やナマケモノのつめ、毛に生えているコケをよくかけたと思います。しょうももらって絵をかくことがとてもすきになりました。

【保護者から】

この度は、名誉ある賞を頂き親子で大変嬉しく思っております。展示された絵を見て、普段から動物や自然が大好きな息子らしい気持ちの和む「ナマケモノときせつの花火」が描けたと感じております。今回の受賞を励みに色々なことに挑戦して欲しいと思います。



「ライオンのゆうぐ」
坂戸市立坂戸小学校 1年 小峯 陽翔さん

【作者から】

学校に「こんな遊具があったらいいなあ。」と想像しながら描きました。

ライオンのお腹の中は、迷路型滑り台になっています。

クラスの友達と楽しく遊んでいる様子です。

【保護者から】

この絵には、友達と楽しく遊んでいる様子が伝わってきて、とても楽しそうな絵だと思います。

普段、絵を描いているところを見ないので、まさか知事賞に選ばれるなんて驚きです。

この先も今回のような想像力豊かな発想を活かして色んなことに役立ててほしいです。

【作者から】

わたしはこの絵をかいているとき、どうぶつ園で見たペンギンを思い出して、いっしょにあそんでペンギンの国に行きたいなという気持ちでかきました。

知じょうをもらってうれしかったです。これからもいろいろなどうぶつの絵をかきたいです。



「ペンギンといっしょ」
吉見町立西が丘小学校 2年 瀬戸口 心さん

【保護者から】

小さい頃は紙いっぱい大きく絵を描く子でした。成長するにつれ、とても細かく色使いも多く変わりました。今回会場で初めて絵を見て、昔と今が重なり合った、娘らしい作品だと感動しました。授業時間を目一杯使い、先生にストップをかけられる程熱中して絵を描く姿に、後がとても楽しみです。



「にじ色の川をわたる新幹線」
戸田市立芦原小学校 3年 松岡 潤さん

【作者から】

この作品は、見ると笑顔になる虹色の川の上を新幹線が走る絵を描きました。速いように見せるために先頭に線を描いてみました。

そして、本当だったらできないようなこともしてみたかったので描き、朝と夜の間に新幹線が走っている様子を描きました。

【保護者から】

親の視点では思いつかない自由な発想の絵で、これまで漢字や九九など何でも教えていた姿から、知らない間に大きく成長していたことを実感しました。

一緒に参加した授賞式、記念撮影での誇らしげな表情の記憶を親子で大切にします。

先生方、ありがとうございました。

知事賞作品の紹介（小学校高学年）

小学校高学年の審査に携わって

川口市立鳩ヶ谷小学校長 岩田 直代

「郷土埼玉」をテーマにして、小学校高学年の作品も子どもたちの自由な感性がきらきらと溢れ出るような作品が揃いました。子どもたち自身が描きたいものを、それぞれの造形的な見方や感じ方を大切にして、表現方法や描画材を選び、思いを広げながら描いた作品が多く見られました。また、形や色、構成図のバランスなどにも配慮した高学年ならではの、テーマに迫る作品も見られました。

今後の中学校との接続、連携を考えると、表現活動を通して自らつくりだす喜びを味わうことができる授業の積み重ねが大切です。更に平素からの校内展示の工夫や、様々な展示作品を通して自分の見方や感じ方を深めるような鑑賞の充実を図っていくことも、子どもたちの資質や能力を育てていくことへと繋がります。



「small world in おし入れ」

桶川市立朝日小学校 5年 井原 優翔さん

【作者から】

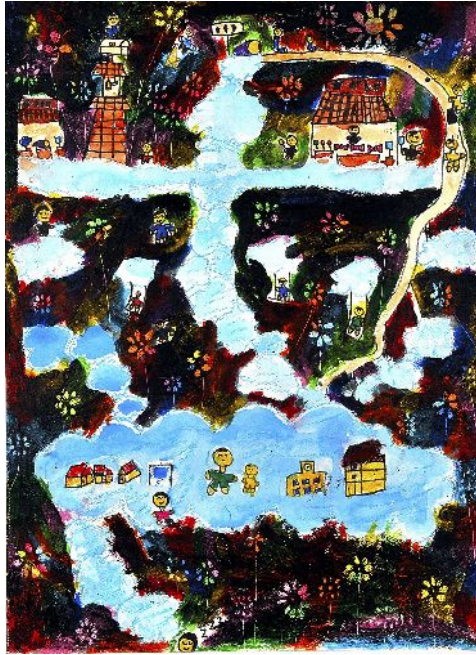
自分の家の押し入れの中に町があって、いつでも遊びに行けたら楽しいと思い、この絵を描きました。描きながら頭の中に浮かんできたイメージをどんどん描き足していき、自分が行ってみたいような楽しい町になったと思います。

これからも自分のイメージをたくさん表現していきたいです。

【保護者から】

小さな押し入れの中に無限に広がる世界、所々に散りばめられた文房具や将棋の物など、息子の想像力をそのまま映し出したような夢のある絵だと感じました。

今は制限が多い生活が続いていますが、子供たちの進む未来がこの絵の世界のように多彩な可能性に満ちたものであるように願っています。



「雲山の川越」
川崎市立霞ヶ関東小学校 4年 坂下 龍成さん

【作者から】

へんてこ山の形を考えたとき、ぱっと思いうかんだのが雲山でした。人や建物をかいていくうちに楽しくなりました。雲山を目立たせるためにまわりを黒くぬり、スクラッチの技法で表しました。とてもきれいにできました。これからも楽しく絵をかいていきます。

【保護者から】

知事賞受賞の報告を受けたとき、驚きました。実際に絵を見たら、学校で教わったことを活かした表現や発想に細かいところまでしっかり描かれていて、とても素晴らしい作品でした。これからも自由にのびのびと描いてもらいたい、成長を見守っていきたいです。

【作者から】

「あったらいい町、どんな町」を描くと言われて、たくさんの動物でにぎわっている町があると良いなと思って描きました。

ぼくが一番気に入っているのは、右下の動物広場です。うさぎと羊が好きなので、ここで一日過ごしてみたいです。



「今日はどの動物と遊ぼうかな」
行田市立桜ヶ丘小学校 5年 藤田 明翔さん

【保護者から】

息子は、幼児の頃から動物の絵を描くのが好きで、よく描いています。家では、うさぎとハムスターを飼っていて、動物と過ごす時間を楽しんでいます。

作品を見た時、息子はこういう町に住みたいのだなと思いました。細かく丁寧に描けているなと感じました。



【作者から】

この絵は、集合場所をメインに描いたので、題名を「家の前の集合場所」にしました。毎朝見ている何気ないこの場所が6年間の私自身の成長の証でお気に入りの場所です。

この場所で起きた様々な出来事を思い出しながら描きました。

【保護者から】

学校から帰って来るなり、「今度家の周りの絵を授業で描くことになった。」と写真をたくさん撮っていました。その中で、登校班の集合場所を選んで描いたようです。

出来上がった絵を、美術展に家族全員で見に行くことを楽しみにしていました。

知事賞おめでとう。

「家の前の集合場所」
川崎市立川越第一小学校 6年 井口 凜さん

知事賞作品の紹介（中学生）

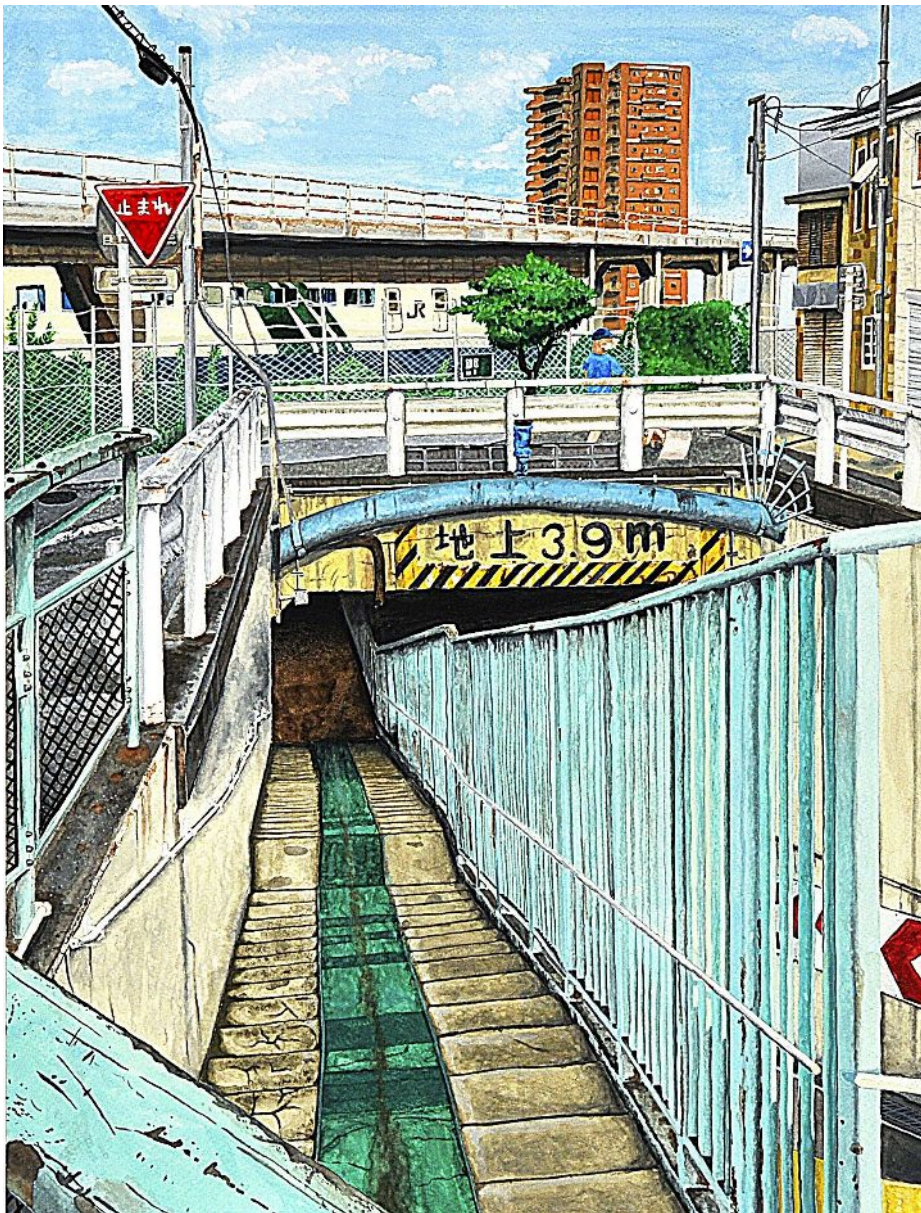
中学生の審査に携わって

上里町立上里中学校長 勝山 寛美

中学生の作品は、作者の顔が思い浮かぶような個性溢れる作品が多く、大変ワクワクした気持ちで審査に臨みました。全体的には、コロナ禍においても、これまでと遜色のない力のこもった見事な描きぶりでした。生徒は思い思いに持てる力を発揮しており、こういう時だからこそ一層『美術』への思いが高まっているのかもしれませんが。

身近な日常生活にスポットを当て、心が動いた瞬間を上手に捉え、見る者をあっと言わせるような色彩や構図で表現しています。季節感や光の感じなどを作者が感じたままに素直に表現しているため、自然と私たちの心を引きつけました。

これからも郷土を愛する気持ちを大切に、自分の感じ方や考え方をもとに主題を大切に、中学生らしい表現を追求して行って欲しいと願っています。



【作者から】

昔からある近所の地下道を選びました。

階段の先は狭くて暗く少し怖い道路ですが、時を重ねてきたその姿をそのままに表そうと、汚れやサビの細部にまでこだわって描きました。

これからも、誰かの心に残る絵を描いていきたいと思います。

【保護者から】

忙しい時間を見つけては、コツコツと描いていました。妥協せず納得いくまで描きあげている姿に、成長を感じる事ができました。

知らせを受けた時は驚きましたが、とても嬉しく誇りに思います。

この度は素晴らしい賞をいただき、どうもありがとうございました。

「地下道」

川口市立西中学校 2年 太田 ひなの さん



「木陰で見つけた夏」
鶴ヶ島市立南中学校 1年 安齋 一花さん

【作者から】

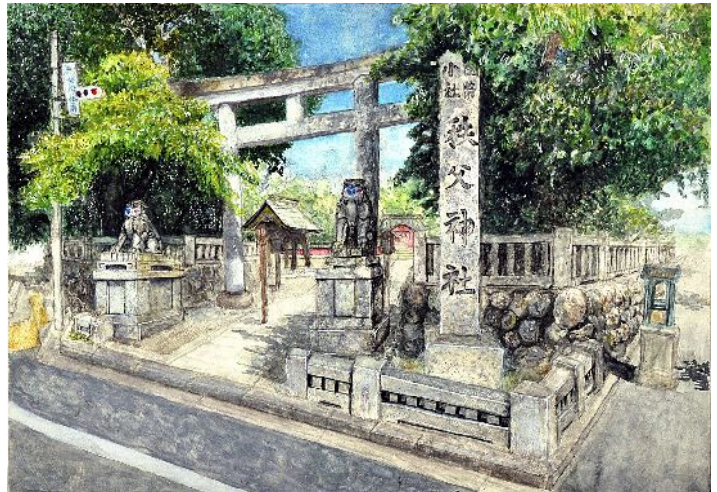
母の車の助手席に乗って幼い頃、よく通った場所です。中学生になって久しぶりに訪れても、懐かしい変わらない風景がそこにありました。大きな空と木々の緑、踏切の黄色のコントラストが美しく印象に残ったので、表現できればと描きました。知事賞をいただけて光栄です。ありがとうございました。

【保護者から】

自分で見て感じた「空」そのままの姿に近づけるために、何枚も空だけの下絵を描いては、色の明度や雲の描き方を確かめていました。時間をかけて丁寧に楽しそうに絵と向き合う娘の姿をみて、普段の慌ただしい日常では得られない、夏休みならではの良い時間になったのではないかと感じました。

【作者から】

マスクをしている神社の狛犬を見つけ、今の状況にふさわしいと思い描きました。強い日差しに照らされた夏の爽やかさを表現することに努めました。早くコロナが収まり、狛犬も人々もマスクをしなくて済むようになって欲しいと思い描きました。



【保護者から】

夏特有の空気感などを表現しようと沢山の時間この絵と向き合っていました。何度も神社に足を運び質感を確認したり、自分の思い描くものを表現するため悩んだりすることで成長が感じられました。

努力した結果このような賞に繋がった事はこれからの人生の糧となると思います。ありがとうございました。

「秩父神社～マスクをした狛犬～」

秩父市立秩父第一中学校 2年 野口 萌衣さん

【作者から】

夕暮れと灯ろうの光が反射した川が幻想的で、表現したいと思い描きました。人物の服や顔に映る灯ろうの光や川に映る様々な光など、細部にもこだわりました。人物や夕暮れの微妙な暗さを表現することが難しかったですが、納得のいくまで挑戦しました。



【保護者から】

毎年水の流れを風景の題材として描いてきましたが、今回は人物の動きや夕景をどう表現するか試行錯誤をかさねているようでした。根気よく丁寧に絵と向き合っている姿を見て娘の成長を家族で感じられ嬉しいとともに、本人にとってもとても良い経験になったのではないかと思います。

「星川とろう流し」

熊谷市立富士見中学校 3年 岡田 真采さん

搬入・入選・特選状況一覧表

地 区	小 学 校					中 学 校					
	搬入校数	参加児童数	搬入点数	入選数	特選数	搬入校数	参加生徒数	搬入点数	入選数	特選数	
さいたま市	105	67,826	3,270	1,199	140	28	12,457	439	163	19	
南部	北足立南	129	74,583	3,422	1,171	162	48	26,469	939	291	54
	北足立北	60	25,697	1,251	500	60	30	14,121	621	250	27
西部	入間	144	56,955	2,950	1,558	91	39	13,067	474	163	45
	比企	44	9,683	484	194	23	18	5,001	250	100	12
北部	児玉	23	6,284	341	129	18	8	3,264	138	64	9
	大里	55	17,563	879	438	43	29	9,300	465	231	22
	秩父	23	4,419	241	81	18	10	2,102	107	38	9
東部	北埼玉	48	10,760	2,152	227	27	19	6,062	1,225	121	15
	埼玉	148	64,505	2,243	1,515	153	73	31,104	735	495	59
私立校	0	0	0	0	0	4	36	17	5	1	
合 計	779	338,275	17,233	7,012	735	306	122,983	5,410	1,921	272	

小・中学校	搬入校数	参加児童生徒数	搬入点数	入選数	特選数	入選・特選の総計
	1,085	461,258	22,643	8,933	1,007	9,940

知事賞は特選数のうちの120点。

画集「郷土を描く埼玉子どもの絵」 第39集刊行

図工・美術指導教材に、学校図書館に、ぜひ1冊

第55回「郷土を描く児童生徒美術展」の知事賞を受賞した120点の作品を掲載した画集「郷土を描く埼玉子どもの絵」第39集が刊行されました。

今回も子供たちの個性が光る素晴らしい作品が揃いました。

掲載作品には絵画を描いた児童生徒本人の「作者のことば」が掲載され、子供達の瑞々しい感性を感じていただけるものとなっております。

また、専門家による鑑賞案内「子どもの絵について」や特選を受賞した児童生徒の氏名・学校名も掲載されています。

ぜひ、御家庭や教育現場に1冊いかがでしょうか。

お申込みは、指定教科書販売店、埼玉新聞販売店又は埼玉新聞社出版担当（TEL048-795-9934）までお願いします。





郷土愛を育む・埼玉県校外教育協会会長 村上博俊

県立近代美術館での郷土展

各校図書室に画集を常備して情操教育を・これもコロナ対策

埼玉の教育の看板は、児童生徒です。次を担う世代の応援をお願いいたします。

さて、今回は、令和2年12月26・27日に初めて「埼玉県立近代美術館」で行われた「郷土絵を描く児童生徒美術展」の様子をレポートいたします。

コロナ禍で中止との危惧もありましたが、フェイスシールド・消毒・待機場所づくり・地区割の参観時間表作成などコロナ対策を行い、埼玉県・県教育委員会各部署と県美術教育連盟等の御尽力により二日間にわたって実施された。その事態に、私も視察ではなく、今回開催担当の埼玉県美術教育連盟副連盟長、所沢市立荒幡小学校の鈴木勢津子校長とともに、二日間全日程を通して会場に張り付き、関係者に敬意を表した。

鈴木校長は、積極的に多くの来場者に心身ともに寄り添った対応をされた。

「会長、2年連続の受賞者がみえました。知事賞のお祝いを申し上げますと、ここを工夫した、ここが難しかったと教えてくれました。絵から感じられるとおりの素晴らしい人柄でした。」その言葉に触発され、私もある大家族の輪に飛び込んだ。

「今年は弟が、また数年前にお姉ちゃんも知事賞をいただいたんです。真ん中のこの子は知事賞ではなく特選でしたが一番安定していて関係の大学に進んでいます。」

同時に展示してあった過去の画集の中に姉の作品を見つけて家族の喜びがあふれていた。画集には姉弟の名前が3人揃うことになる。



参観者に寄り添い、新たな郷土展ならではの楽しみ方を満喫した2日間。

参観人数は例年の6分の1である約600人だったが、関係の方々に感謝するばかりである。

画集は今年第39集。教材・参考図書・研修・情操教育の観点から、今後も各学校でぜひ毎年継続的に、推薦図書同様、図書館などに常備されるよう工夫計画していただきたい。また、職員室用の教育図書扱いでも価値があるものと思う。県指導主事による「絵の見方」を含め、絵のコメント等にも教育の原点が見えてくる。こんな時期だからこそ、予算など振り返ったり、継続可能な運営経営をしたりして、画集の常備にご協力を。

(一社)埼玉県校外教育協会について

昭和35年に社団法人として設立され、埼玉県内の児童・生徒の校外での生活の充実を図る活動の助成及び郷土を愛する運動の促進を図ることに関する事業を行い、児童・生徒の健全な育成に寄与することを目的として活動しています。

平成25年4月1日に社団法人から一般社団法人へ移行し、会員は県内の公立小学校長806、公立中学校長413、公立義務教育学校長1、公立中等教育学校長1、市立特別支援学校長4、私立小学校長5、私立中学校長30、埼玉大学教育学部附属校(小・中・特)の学校長3、市町村長63の合計1,326名であり、事務局は埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課に置かれています。

郷土を愛する子供たちの育成に、**今後とも会員(県内各市町村長・各学校長)の皆様**の御理解・御協力を**お願い致します。**